

## 1. 仮説

- ・ カルテを生かした承認賞賛の言葉かけを行えば、子ども達は積極的に表現することができるであろう。
- ・ カルテを生かした資料提示を行えば、自分なりの根拠をもって考え、自信と意欲をもって表現主題にせまろうとすることができるであろう。
- ・ 自分の考えとその根拠を書き残せる図工ノートを使い小集団交流の場を設定すれば、表現主題に近づこうとする課題解決力が高まるであろう。

## 2. 学習の主題

身近で伝統的な地域の情景で、心に残ったことがよく伝わるように版で表し、それらの作品のよさや美しさを味わう

## 3. 題材名

「○○の誇り ○○流 ～白と黒の美しさ～」 (表したいことを絵や立体で表す)

## 4. 指導観

○ 本学級の子供達は、絵をかくことやものを作ることに対する興味はもっているが、図工の時間が好きだと言えない子どもも多い。それは、「うまくかけない、できない」という気持ちが子どもの心の中にあるからある。特に絵をかくことへの抵抗～要因は発想構想・技能の積み重ね不足と発想・鑑賞での受容的雰囲気と心の解放不足にあると考える～がある子どもが多いことが気になり、4月から図工の時間にショートでクロッキーをしたり、じっくりと対象を見つめる時間をとったりしてきた。その中で子どものよさを見つけてほめながら、何回か繰り返し取り組んでいく中で、少しずつかくことの楽しさを感じ取れるようになってきている。また、技法を“教えた”後は一人一人が自ら“考えて”使っていけるように、掲示資料『技法コーナー』を準備した。これによって、

自分の表現主題にそった技法を進んで使っていこうとする子ども達の姿が見られるようになってきた。さらに、「自分を見つめて～自画像～」の題材では、この『技法コーナー』を使い、混色や水加減を工夫し自分だけの色づくりをしたり、黄色・黄土色・茶色のグラデーションによる色の美しさを知る体験をしたりして自分の思いにそった色で表現することの楽しさが味わえるようになってきた。

このような活動の中から、「表現するって楽しい」「こんなに思いっきりかけられるんだ」という表現への自信も出てくるとともに、「もっと○○してみたい」「○○するにはどうしたらいいだろう」と自分の表現方法をさぐる姿が見られ、図工への意欲も少しずつではあるが出てきている。また、友達のこだわりの部分を見つけ、その子どもの表現のよさとしてお互いに認め合うこともできるようになってきている。

○ この題材では、自分たちの誇りである博多山笠の伝統や力強さ、美しさを主題にし、版で表現する中で、限られた色でも自分の思いを表すことができる楽しさに触れさせたい。その中で、今まで気付かなかった博多山笠・○○流のよさや美しさを新たに感じる事が出来ると考える。

また、彫刻刀の使い方や彫り方に目を向けさせ、自分にあわせて、白から黒までの中間色（線や面の密度を工夫して）が表現できるように彫り方を考えさせながの表現を追求させたい。

さて、主な学習内容は次の通りである。

- ・ 木版画で表すことに興味をもち、力強いと感じた所、すばらしい、美しいと思った所などを表現しようとする意欲をもつこと
- ・ 彫刻刀による表現の仕方を理解し、どのように表したらいいか自ら考えながら、画面構成をしたり、白と黒の色の見直しを持つこと。
- ・ 自分の思いにあった適切な彫刻刀を選んで工夫して版をつくったり、インクのつけかた、ばれんの使い方などを工夫したりすること。
- ・ お互いの作品を見合って表したかったことを話しながら作品のよさに気づいていくことができること

版での表現は、下絵をかく、配色する、彫る、刷るという4つの過程がある。子ども達にとってほどよい抵抗感があるとともに、一つ一つの学習活動で学ぶことがちがいで、常に刺激を感じつつ興味関心をもって、自ら学んでいくことができる。木版画では、彫刻刀の種類を工夫したり、長短たくさんの線を彫ったりして、立体感や材質感などを表現していくため、根気強さと指先の巧緻性をさらに高めさせたい6年生の子ども達にとって適した教材であると考えます。

- 指導にあたっては、毎時間ポートフォリオ評価（※資料②）を行い、児童の思いに応じた支援を考えていく。

発想・構想の段階では、子ども達が愛する〇〇町の誇りである、博多祇園山笠 〇〇流の子供山笠に参加している自分を思い出し、モデルとなる自分や写真を元に表現していく。その中で、歴史と伝統を改めて感じるとともに、そこに主体として参加している自分の新たなよさや美しさを感じることが出来るようになる。その思いをふくらませたり確かめたりするために、図工ノート（※資料③）に具体的にまとめた上でラフスケッチしていく。その際、一人一人とじっくりと対話しながら、付加したりトリミングしたりしていくようにする。下絵の際に、人物の形や重なり・遠近の表現に自信がない子どもには、写真を提示したり、TPシートでの映像を重ねる資料を準備したりしながら、表すことを提案し個別に対話しながらじっくりと表せるようにしていく。

表現段階では、自分が一番心に残っている場面をどう表現していけば、より美しく、自分らしく表すことができるかを考えて版をつくり表していく。うまく表せない児童には、個別に対話したり表現方法を提示したりしていく中で支援していく。

鑑賞段階では、自分たちの作品を展示するギャラリーを自分たちでつくることで、お互いの作品と新鮮に刺激的に出会うことができ、自主的、積極的に作品を味わうことができる。また、自分の作品を楽しみながら、より深く見てもらうためにクイズ形式の『みてね！カード』やお互いの工夫や努力を認め合えるような『交流カード』も準備させる。

## 5. 目標

- 白黒の美しさに関心をもち、表したい感じが表れるように木版で最後まで粘り強く表そうとする。 【造形の関心・意欲・態度】
- 対比を考えながら白黒に単純化し、構図や白黒の構成を工夫し自分の思いを表現する下絵を構想することができる。 【発想や構想の能力】
- 自分の表したい感じに合わせ、光と影を意識し、彫刻刀の違いによる彫りあとの美しさを効果的に生かすことができる。 【創造的な技能】
- 自分なりの見方や感じ方を深め、お互いに協力して主体的に自分や友人の作品のよさや美しさを味わおうとする。 【鑑賞の能力】

## 6. 題材の評価規準

造形の関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○ 木版画による表現のよさ(白と黒の美しさ)に関心をもち、自分なりの方法を試しながら表している。	○ 選んだ場面の特徴や自分の表したい感じがあるような画面構成や白と黒のバランスを考えたり、表現の見通しをもったりする。	○ 自分の表したい感じがあらわれるように彫刻刀の種類や彫りの方向、彫りの過密(光と影の感じ)を意識した彫り方を工夫してあらわしている。	○ 自分や友だちの作品を見て画面構成、白と黒のバランスや彫刻刀の種類による感じの違いなどのよさや美しさを感じ取っている。

## 7. 指導計画 (14時間 版画題材13時間+鑑賞題材1時間)

段階	配時	主な学習の流れ	支援 (○) と評価 (●)
発 想	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちも昇き手や乗り手、ごりょんさんとして参加し、身近で誇りのある博多山笠中で一番のお気に入りの瞬間をラフスケッチをしていく。</li> <li>※ 歴史と伝統を改めて感じ、新たなよさや美しさを感じることが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スケッチ前にイメージしやすいように<b>交流の場</b>を設ける。</li> <li>○ 思いをふくらませたり確かめたりできる<b>図工ノート</b>の準備。</li> <li>○ 一人一人と<b>個別対話</b>をしながら、付加・トリミングをする。</li> <li>○ 人物の形や重なり<b>の表現に自信がない子どもに、写真などを提示する。</b></li> <li>● 心に残る自分<b>だけのお気に入りの場所を進んで発表する</b></li> <li>● デジタルカメラや<b>一口メモ、交流の場で活動や表現過程を受容的に評価し、子どもの自己評価に生かす。</b></li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージを元にラフスケッチをし、<b>下絵をつくる。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分なりにイメージをふくらめたり確かめたり<b>するために、いつでも振り返れる図工ノートを活用する。</b></li> <li>○ 白と黒のバランスで表現主題がよく伝わるには<b>をどうすればいいかを考えて構成できるように、参考作品を提示する。</b></li> <li>○ 自分なりの根拠をもって白と黒のバランスを考え、<b>自信をもって表現できるように、小集団での交流の場をもつ。</b></li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>● ラフスケッチ、参考作品をもとに、<b>どんな方法でどう表せば自分の思いが表れるか構想できる。</b></li> </ul>
表 現	8 ( 本 時 1 8 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の思いをどう表現していけば、より美しく、自分らしく表すことができるかを考えて版をつくり表していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 光と影を意識して表現主題に迫れるように、<b>技法コーナー</b>(彫刻刀の違い、ぼかしなど)や<b>参考作品</b>などを準備する。</li> <li>○ 自信をもって表現できるように<b>承認、賞賛、示唆の言葉</b>かけをする。</li> <li>● 白黒のバランスや彫刻刀の違いによる彫りあとの美しさを工夫しながら、自分の思いにそって彫っている。</li> <li>● インクの量や練り方、付け加減、<b>ばれんの力の加え方</b>などに注意しながら刷っている。</li> </ul>
鑑 賞	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「みてね！カード」をもとに自分や友だちの作品のよさや美しさを感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現主題を振り返り、自分なりのよさを確かめるために、<b>図工ノート</b>を準備する。</li> <li>○ 自分よさを確かめ、友だちの思いに迫りよさに気づける<b>「みてね！カード」</b>を準備する。</li> <li>○ 友人の作品のよさを自分なりに確認した上でそのことを交流し認め合えるような、付箋を使った『<b>交流カード</b>』を配布する。</li> <li>● 白と黒のバランスによる感じの違いや彫刻刀や工夫による美しさの違いを自分なりに鑑賞している。</li> </ul>

## 8. 本時目標

- 自分の表したい感じがよくあらわれるように、彫刻刀の種類を工夫して彫ることができる（創造的な技能）

## 9. 本時授業仮説

- 授業カルテを生かした提示や言葉かけの支援を行えば表現主題に即して意欲的に学習に取り組み続けることができるであろう。（意→視点1）
- 友達や教師からの評価や、表現主題を振り返り思いを書き留められる『図工ノート』（※資料②）を使えば、表したい感じがよりよくあらわれるよう陰影を意識して主体的に表現することができるであろう。（発・構→視点2）
- 以下のような支援を行えば、自分の思いがよくあらわれるように彫刻刀の種類を工夫して切り出し線に沿った丁寧な彫ができるであろう。（技→視点3）
  - ・ 彫刻刀によって雰囲気の違いを参考作品を提示して交流する場の設定。
  - ・ ビデオモニターを通して彫刻刀（切り出し）の使い方の演示。

## 10. 本時参観にあたっての視点

視点1：カルテを生かした支援によって意欲的に構想することができたか。  
そのために資料提示や承認賞賛の言葉かけは有効であったか。  
（交流時の児童の様相）

視点2：自分なりの根拠をもって彫ることができたか。そのために図工ノートは有効であったか。  
（図工ノートの記述内容）

視点3：主体的に自分の考えを図工ノートに書き、思いに沿った彫刻刀の工夫ができたか。そのために参考作品や演示を行ったり小集団交流の場を設定したことが有効であったか。（図工ノートの記述内容・彫りの様相）

## 11. 本時指導の考え方

本時は、白黒の計画をした版を、表現主題を意識して根拠をもとに彫刻刀を選択していくことをねらいとしている。子ども達は自分の思いやこれまでの活動を図工ノート等で振り返りながら、前時まで自分の作品の、表情など力強く表したいところや、皮膚などやわらかく表したいところを決めてきている。ただ、そのために、どの彫刻刀を使って行くことが効果的かを考えているわけではない。

そこで、各種の彫刻刀を効果的に使って表現している参考作品を提示し、それぞれの感じ方の違いを全体で交流していく中で自分のイメージを明確にさせていく。

その後、彫刻刀による感じの違いを理解した子どもたちに、図工ノートで自分の表現主題を振り返らせる。その上で、自分なりの考えをもって何を使って、どのような彫り（「柔らかい感じになように小丸刀を多めに使いたい」とか「はっきり目立たせたいから三角刀を使いたい」）にしたいかを本時の図工ノートに書かせていく。書く活動を通して自分の考えを確かめていき、自分なりの課題解決（表現主題に近づいていこうとすること）につなげていく。

また、丸刀や小丸刀、三角刀を使う際に、切り出しで確実に山（＝彫り残す場所＝黒く残る部分）を作り他の彫刻刀のストッパーとして美しい線を残していけるように教師の演示を見せる。細かい演示になるため、ビデオカメラとスクリーンを使って全体に教師の演示を見せる。

彫りの際、彫り方で困っている子どもがいる場合は、彫刻刀の使い方の資料を提示したり、個別に対話・支援していく中で自信をもたせていく。

最後に、この日の学習を通しての考えと今後の見通し、次時以降に向けて心配な点などを図工ノートに書かせる。図工ノートは次時以降の支援のもととなるカルテにつないでいく。

## 12. 準備

- 教師：参考作品，提示資料（各彫刻刀の使い方等の技法コーナー），（カルテ）サンドペーパー，石，（試し用の板…多くの子は版木の裏で代用）ビデオカメラ，スクリーン，（演示を振り返られる）提示資料
- 児童：図工ノート，ポートフォリオ，彫刻刀

## 13. 本時

平成21年10月19日（月曜日） 第5校時 於 図工室

## 14. 展開

学習活動と子どもの姿	評価規準・評価方法	指導・支援
<p>1 めあてをつかむ。</p> <p>(1) 参考作品を提示し，自分の思いにあった表現方法を知る。</p> <p>(2) めあてをつかむ。</p> <p>— めあて — 自分の表したい感じがよくあわせするように彫ろう。</p> <p>(3) 自分の見通しを図工ノートに書く。</p>	<p>〈関心・意欲・態度〉</p> <p>○ 自分のあらわした感じがよく表れるように，参考作品に興味をもち自ら試そうとしている。 (子どもの様相つがゆき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までの活動や図工ノート等から彫刻刀の種類や彫り方についての課題を把握し助言できるようにしておく。</li> <li>・ それぞれの感じ方の違いに気付けるように彫刻刀の違いによって表現が違ふ参考作品を準備する。</li> <li>・ 彫刻刀による感じ方の違いを明確に出来るように交流の場を設定する</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 切り出し線に向かい丸刀や平刀で彫る。</li> <li>・ 線の深さ浅さを考えて強弱を工夫して彫る。</li> <li>・ 線の数，長さ，重なり，方向などを工夫して彫る。</li> </ul>
		<p>3 本時の学習を振り返り，次時への意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の表現主題を図工ノート等で振り返っている。</li> </ul>

- ・ 自分の表現主題と本時の見通しを図工ノートで振り返っている。

- 2 自分の思いに合わせて彫刻刀の特徴を考えて彫る。

〈発想や構想の能力〉

○ 選んだ場所の特徴や自分の表したい感じがあらわれるよう彫りの方向や過密を考えている。  
(児童の様相，図工ノート，作品)

〈創造的な技能〉

◎ 自分のあらわした感じがよく表れるように，彫刻刀の種類を工夫して切り出し線に沿って丁寧に彫っている。  
(図工ノート，作品)

備する。

- ・ 他の彫刻刀のストッパーとなり美しい線を彫り越せるように切り出しの使い方をスクリーンを使って演示する。
- ・ 演示を振り返りたい児童のため提示資料を準備する。
- ・ 彫刻刀の選択について考えが深まっていないときは小集団交流の時間を少しとって自信をもって彫れるようにする。
- ・ 自分の表現に合うように道具を選んで彫ることが出来るように，いくつかの特殊な彫刻刀（超小丸刀など）も準備しておく。
- ・ 思い通りに活動できない児童には個別対話の中で承認賞賛や示唆の言葉かけを行ったり資料を提示したり個別交流をしたりして活動を促す。

## 15. 資 料

### 資料① TTとの連携

国語・算数での個別支援を中心にきめ細かな学習が出来るように心がけてきた。成果として、一人一人の基礎基本の底上げ，意欲の向上が少しずつ出来てきたように考える。教材や教具の準備も充実してきている。課題としては、カルテの作成等も視野に入れた評価と指導の一体化を更に協力して進めていきたい。一人一人の課題を十分に把握して、より一人一人に即した指導・支援を行うことで力の更なる向上を図りたいと考える。

### 資料② ポートフォリオ評価

ポートフォリオ評価とは、結果のみでなく学習の過程を評価し、子ども一人一人がファイルしていくものです。この評価は、子ども自身が自分の学びの過程を自ら見ることができ、教師も子どもの成長過程を見て、振り返ることができるという利点があります。また、子どもが自己確認した成長の軌跡をファイルすることで、自らも成長の過程を振り返ることができます。教師が価値付けしたものを、子どもが自己評価し、常に課題と意欲をもって活動を展開していけるものと考えます。

本題材において、ポートフォリオの中には、下絵やその思い・版画の各段階におけるデジタルカメラ映像・考察や感想・自己評価・教師からのヒントやアドバイス等をいれていきます。デジタルカメラの映像をプリントアウトしたものはそのまま配り、メモを自由に書けるようにしておきます。そのメモがその日の考察や感想となり、課題となり、疑問となるのです。子どもにとって、この活動が自己の評価になり、課題の確認や意欲の持続の元となるものと考えます。それは、メモと写真で自分

のそれまでの活動が常に振り返られるためです。また、写真を撮る側である教師は子どもと対話していく中で、その時の頑張りを理解し、価値付けしていくこととなると考えます。教師は、このポートフォリオによって子ども達はその日に感じたことを理解する手がかりとなり、支援をしていく上でのカルテともなります。子どものメモに対し、評価やヒント、アドバイスを書き込んでいくこともできます。“知的交換日記”みたいなものといえるのではないかと考えます。

### 資料③ 図工ノート

図工ノートとは、子ども達の『つくり出す喜びが振り返られるノート』のことである。

具体的には

- ① 表現過程に沿った子ども達の思いを書き留められるもの。
- ② 自分の技能の高まりや発想のよさなどを振り返られるもの。
- ③ 自分らしさや自分のこだわりが目が向けられるもの。

であることが必要と考える。

そのために各時間、子ども達に自分の思いや考えを書き残させていくとともに、教師の承認・賞賛の言葉を書き残していくことで、子どもの力の高まりやこだわりを価値付けし一人一人に返していけるようにする必要があると考える。ここでの、評価をカルテとして残していくことが次への支援にもつながっていくと考える。図工ノート自体が子ども達にとってはポートフォリオ評価の一つであり、図工ノートでの評価を名簿に残していくことが教師にとってのカルテとなっていく。

具体的な本題材における図工ノートを、次ページ以降に添付する。